

会議の名称	第3回茨木市水道・下水道事業審議会
開催日時	令和4年10月4日(火) (午前)・午後) 10時00分開会 (午前)・午後) 11時30分閉会
開催場所	茨木市福祉文化会館202号室
議長	仲上健一会長
出席者	仲上健一会長、岡崎利美委員 【以上、学識経験者 2名】 山野一弥副会長、北舎和彦委員 【以上、事業関係者 2名】 八木香織委員、佐名川玲子委員 【以上、利用者団体から推薦された者 2名】 角谷伸一郎委員、井上しょうじょ委員 【以上、公募市民 2名】 【8名】
欠席者	
事務局職員	福岡水道事業管理者、酒巻水道部次長、 岸本水道部次長兼営業課長、田邊水道部次長兼工務課長、 松本水道務総務課長、伊藤浄水課長、 池田水道部総務課長代理兼総務係長、堀井水道部総務課企画係長、 水道部総務課職員 藤田建設部長、福田建設部次長兼下水道施設課長 松野下水道総務課長、前田下水道務課長代理兼経理係長、 金馬下水道施設課長代理兼工務係長、渡邊下水道総務課総務係長、 梶下水道施設課管理係長、参河下水道施設課計画係長 【18人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 第2回審議会における「下水道等事業経営戦略」の修正等について (2) 「下水道等事業経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理について (3) 第2回審議会における「水道事業ビジョン・経営戦略」の修正等 及び審議会の今後の進め方について (4) 「水道事業ビジョン・経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理に ついて
配布資料	(配布資料) ・会議次第 ・茨木市水道・下水道事業審議会スケジュール表(見直し案) ・(仮称)茨木市水道事業ビジョン・経営戦略(案)2023-2032 ・茨木市下水道等事業経営戦略(案)

会 議 録

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
仲上会長	<p>ただいまから、第 3 回茨木市水道・下水道事業審議会を開催します。終了時刻は午前 11 時 30 分を予定しています。</p> <p>本日の審議会委員の出席状況について事務局から報告をお願いします。</p>
堀井係長	<p>本日の審議会委員の出席状況について報告します。</p> <p>委員総数 8 名のうち、出席者 8 名、欠席者はありません。</p> <p>委員全員ご出席をいただいておりますので、茨木市水道・下水道事業審議会規則第 6 条第 2 項により、本会議は成立しております。</p>
仲上会長	<p>定員を満たしているということですので、このまま会議を進行します。</p> <p>それでは、案件 1「第 2 回審議会における「下水道等事業経営戦略」の修正等について」、事務局より説明を受けたいと思います。</p>
前田 課長代理	<p>下水道等事業経営戦略の第 1 章から第 4 章について、第 2 回からの主な修正箇所を説明します。</p> <p style="text-align: center;">（「第 2 回審議会における「下水道等事業経営戦略」の修正等について」 説明）</p>
仲上会長	<p>事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。</p>
山野副会長	<p>説明にありました資格は、どんな資格で、有資格者は今、何人中何人所属されているのか、具体的な数値ありましたら教えてください。</p>
前田 課長代理	<p>資料の 47 ページの表 6-1 で具体的な目標の方を数値化しています。</p> <p>計画設計に携わることが可能な資格者 2 名、ポンプ施設の管理監督等に必要な資格者 2 名、排水施設の管理監督可能な資格者 6 名、維持管理に必要な資格者 4 名を目標値としています。</p> <p>現状は令和 3 年実績と同じ人数で、技術職員は 27 名です。</p> <p>将来的には右側の目標値、計画設計 3 名、ポンプ施設 2 名、排水施設 6 名、維持管理 4 名になるように今後も育成に努めたいと考えています。</p>
山野副会長	<p>数字は分かりましたが、例えば計画設計ならどんな資格とか、管理監督等ポンプ施設ならどんな資格とか、具体的な資格名はないんですか？</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
前田 課長代理	こちらの資格は、下水道法 22 条の法律で定められており、例えば、排水施設の監督管理を行うことができる資格は、下水道工学等を修了している方であれば 1 年以上実務経験が必要という形で決められています。
山野副会長	計画設計とかポンプ施設とか維持管理についても同じように下水道法で全部決まっているんですか。
前田 課長代理	今回挙げた項目についてはすべて下水道法で決められているものです。卒業された学歴、終了された学科、あと、そちらの業務に携わった年数によって基本的には資格があるかないかが決まるようになっています。
北舎委員	下水道を設置するのは下水道法 22 条の資格がいるんですが、例えば、維持管理は下水道技術検定 3 種という部門。下水道の工事監督管理は、下水道事業団が代行している国の指定機関の資格もあります。下水道技術検定 1 種が計画、2 種が工事管理、3 種が維持管理、こういったものもあります。
仲上会長	それでは表 6-1 の下の所に注意書きで下水道法 22 条等少しわかるようにして頂けたら良いと思います。 他にございませんでしょうか。 それでは修正内容についてはご理解頂いたという事にさせていただきます。
仲上会長	次に案件 2 「「下水道等事業経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理について」、説明をお願いします。
前田 課長代理	(「「下水道等事業経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理について」説明。
仲上会長	ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見ご質問はございませんでしょうか？
角谷委員	32 ページに管渠のイラストが載っていますが、水道管と下水道管とどう違うのか、原価的にはどのくらい差があるのか、材質が違うとは思いますが、教えて頂けたらと思います。
藤田 建設部長	下水道管につきましては、基本的にはヒューム管と言われるコンクリート製管と、小さな口径、小口径というのですが、大体 30 センチ以下になると塩ビ管というものを使っております。単価としては管径によって色々違

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
酒巻次長	<p>いますが、割と安価な管で、自然流下という形で流しています。</p> <p>この 32 ページにありますのは、そのコンクリート管自体が傷み始めてきているので、それを補強する為の工法として、二つの老朽化対策と地震対策という形で、中によくライニングという樹脂のようなものを付けて、補強と、流れる抵抗を少なくするというものを二つ提示させて頂いております。</p> <p>水道管は最大 90 センチほどの圧力管で、全断面使って圧力をかけています。下水道管はその中の流水断面で流れ次第。</p> <p>強度的な問題で、水道管の場合は圧がかかって、圧送している管ですので、管自身に強度がないとちません。</p> <p>茨木市では、50 ミリまでがポリエチレン管で、それ以上がダクタイル鑄鉄管を使います。道路下にある管は最大 900 ミリで、他は最大 600 ミリです。市内全域を巡ってる管の、ほぼ平均的な口径は大体 400 ミリ以下がメインになっています。</p> <p>材質が違いますので、下水道管と比べるにも、口径の違い、材質の違い、がありますので、一概に何対何の割合ってというのは出しにくい、というところですよ。</p>
田邊次長	<p>水道管は圧力管ですので、浅いところに入れることができますが、下水道管は自然流下が基本ですので、下流に行けば行くほどどんどん深いところに入ります。また、管の交差部についてはマンホールが常に必要になってきますので、管だけの単価ではなくて、マンホールの単価などがあるので、単純に整備費の比較はできません。</p>
角谷委員	<p>比較はできないのですね。分かりました。</p>
岡崎委員	<p>37 ページの図 5-4 と図 5-5 ですが、恐らくこの 2020 年と 2021 年までが確定値、それ以降が予想値になっているかと思えますけれども、そのところは予想値なのか確定値なのかは区別しておいた方がよろしいかと思えます。</p>
前田 課長代理	<p>分かりました。注釈を付けます。</p>
岡崎委員	<p>33 ページの図 5-2 のポンプ場のところで、これは今の時点で健全度 1 ですが、機能が果たせない状態のものがあるのですか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
前田 課長代理	ポンプ場につきましては、機能が果たせない恐れがある状態です。
岡崎委員	それが、管路 8 億円、ポンプ場 7.5 億円の投資が必要になるという所に繋がるのでしょうか。
前田 課長代理	7.5 億円の投資は、中央ポンプ場以外にもポンプ場がありますので、ポンプ場の機能を維持する為に、年間当たりの必要な費用となっています。 中央ポンプ場の方は計画期間内で別途、単独の工事計画をしていますが、建て替えるまでは、老朽化等の理由により、赤色の状態が続きます。
福田次長	中央ポンプ場は今、稼働していますが、耐震性能が不足しているため、建て替えに向けて検討している所です。 図 5-1 の 2028 年に赤いグラフが大きく上がっている、この辺りで中央ポンプ場の改修を計画しています。
岡崎委員	単純に、図 5-2 のところで健全度 1 が結構目立つので気になるのですが、この健全度 1 が、素人目にはどうにかしないといけない気にさせるので、そこについて何か言及があっても良いという気がします。
藤田 建設部長	口頭で説明しましたが、本文中に記載がないため、わかるような表現を入れます。 健全度 1 になるとたちまちどうという訳ではなく、理由もここに書いていますが、わかりやすいように文言調整を致します。
山野副会長	37 ページの下の文章のところ、「令和 6 年度からは企業債の発行を抑制したシミュレーションを行っています」とありますが、具体的に何をしているのか教えてほしいという事。 44 ページの一番下で「資金残高は増加傾向の見込みですが、目標範囲にまで達していないため、安定的な事業経営を行うためにも、この 5 年間では現在の使用料を改定する必要はないと考えられます」と書いてありますが、起債の借り方、企業債の発行のしかたで資金残高はいくらでも変わってしまうので、どのように考えて、数字をどのくらいに設定されたのかを説明して頂けますでしょうか。
前田 課長代理	現在下水道の工事につきまして、補助金を除いた部分の約 99% (手数料等を除いた結果) は企業債を借りています。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
山野副会長	<p>この割合を資金残高に無理がない範囲で自己資金から出していくようにシミュレーションをしています。</p> <p>考え方を書いておいて頂いた方が良かったと思います。</p> <p>企業債を借りたら当然資金の方は手元に残るので、37 ページのところの文章と、44 ページのところと裏腹の関係にあります。</p> <p>下水道としての意図、意思、例えば料金改定がどのタイミングできそうなのかの判断が変わるので、どのように企業債の設定をされたのか考え方を書いておかないといけないと思います。</p>
仲上会長	<p>投資計画、財政計画の基本的な考え方のポイントを書いて、こういう抑制したシミュレーションを行っていますという背景をわかるように書いた方が良くということですね。</p>
前田 課長代理	<p>考え方の説明を追加します。計画期間内に汚水についての企業債が 0 になるようにシミュレーションしています。</p> <p>中央ポンプ場の建て替えの時期がずれたらずれますが、基準内繰入金で臨時債が対象になっているものもあり、こちらはできるだけ残したい企業債になりますので、一概に何パーセントという説明は難しくなります。</p>
岡崎委員	<p>値上げなしで、企業債を 0 に近づけられるようにというのはとても健全会計ですので、それは是非もっと強調して書いて良い事ではないかと思います。</p>
山野副会長	<p>でも場合によっては、少し借りて一回つくれば、数十年単位でその施設を使える訳ですから、後世の人に負担して頂くというのも考え方としてそんなにおかしな話でもありません。だからその辺りが、経営される茨木市さんの考え方がこの中に出てこないといけないと思います。</p>
岡崎委員	<p>では引き続き借入れは行いながら、投資を積極的に行った方が良いでしょうか。</p>
山野副会長	<p>老朽化した施設が多くて、たくさん投資をしなければいけないのであれば当然借りていくでしょうし、持っている施設の老朽化度合によって変わってくるので、もう少し丁寧に書かれた方が良くと思います。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
仲上会長	茨木市さんの考え方と、ただ抑制したシミュレーションを行っていませんだけでは読み取れない部分を、はっきり書いた方が良いでしょう。
前田 課長代理	内容を検討し、修正します。
井上委員	質問が2つあります。1つ目は、32ページと33ページで、地震対策・老朽化対策の図を見ると、同じように浸食するイメージを持ちますが、33ページの表では地震の方が早めに終わるように見えます。これは地震対策の方が早めに始めたか、それとも箇所が少ないのか、もう少し詳しく説明して頂けますか。
福田次長	今おっしゃって頂いたように、地震の方を先に開始しています。地震総合計画を立てて、目標では令和7年度末までに、主要な管渠で主な幹線を対策します。 老朽化対策としては、ストックマネジメント計画を令和2年度に策定しましたので、古い管の更生や、一部入れ替え等をしていく予定です。老朽化対策はこれからになりますので、その辺で差があります。
井上委員	もうひとつの質問は、4つの課題の中で2つくらい資金不足の課題がある一方で、企業債を減らす計画を立てていますが、どうやって、資金不足の上で企業債を減らし、収入を増やすのか、もう少し説明して頂きたいです。
前田 課長代理	シミュレーションでは、現在の収入を基に人口の増減等を加味し、将来の収入を計算しています。 支出につきましては、ストックマネジメント計画で今ある施設を維持するために必要な工事費を計算し、また課題として挙げた対策等で必要な資金も反映させています。 課題はありますが、工事を優先し、必要な投資を行った結果、利益が出てくるのであれば、新規企業債を減らすことによって、将来の利子を減らすという考えです。
角谷委員	44ページの一番最後の行で、「安定的な事業経営を行うためにも、この5年間では現在の使用料を改定する必要はないと考えられます」。文脈がおかしいですね。 安定的な事業経営を行う為にも、普通でしたら、使用料を改定、値上げ

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>する必要があるという流れならわかるんですけど、この改定というのは値下げする必要がないという意味で、別の書き方があるのではないかなというのが1点。</p> <p>36 ページ、財政目標もこの表 5-5 を見ると、現状と前回目標というのがあって、例えば、資金残高、現状 8.8 億円、前回目標は 20～40 億円程度の範囲を維持、物凄く数字の差がありますがこれはなぜですか。</p> <p>それだけ計画が狂ってきたのかなとイメージを受けます。</p> <p>それから 20 ページから 24 ページに課題を書いて頂いてますね。その課題を解決する答えはどこかに示されていますか。</p> <p>どこかにあると思いますが、課題として大きく書いてあるので、これを解決する方法を今後こうなるということを書くのがこのローリングの趣旨ではないかなと思います。その3点です。</p>
仲上会長	<p>この 44 ページの文章の意味的には事業経営を行う為にも必要であるという表現が矛盾ではないけども、ちょっと筋が通らないんじゃないかということですね。</p>
角谷委員	<p>まあ市民から見たら値下げして下さいっていう気持ちになりますけどね。</p>
前田 課長代理	<p>使用料に対して 100%以上の原価回収率になっているため、値下げを検討するという考えになると思われませんが、資金残高はまだ貯まっていない状態です。元々、下水道事業が赤字であったため、改善する為に平成 29 年度に料金改定を行ったため、近年、赤字がなくなり、やっと資金残高が増え始めたところです。そのため、使用料は回収できていますが、値下げをするには早い段階という意図でしたが、表現を変えます。</p> <p>目標値の方は、29 ページ 30 ページの今後の取り組み内容のところで書いています。28 ページの表でも、この課題に対する考え方という説明を書いています。</p>
仲上会長	<p>36 ページの表 5-5 で資金残高が前回の目標は 20～40 億円、今回の目標は 15～40 億円と幅がかなりあるため、理解しにくいと思います。</p>
前田 課長代理	<p>こちらは、どのくらいの資金残高がある状態までいけば、値下げ等を考える余地が出てくるかということで、一応上限として 40 億円を目安として決めています。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
角谷委員	この資金残高というのは財政計画のどの欄ですか。
前田 課長代理	40 ページ、収益的収支の「繰越金利益剰余金又は累積欠損金」が今のところ資金残高と同じと思って頂いて大丈夫です。
角谷委員	ということは令和3年は875,685(千円)を丸めた数字ということですね。計画していたものと差が大きいというのは何か理由があったんですか。
前田 課長代理	18 ページの表2-4ですが、計画を立てた時点での資金残高は3.6億円しかなく、順調に増加はしていますが、目標値としていた20~40億円はまだ達することができていない状態です。
仲上会長	他の目標はぱっと数字が出ているのに、資金残高だけ幅を持たせるのが理解しにくい。
北舎委員	目標として下はあっても上はないというイメージです。
前田 課長代理	目標の15億円というのは、一番少ない時でも15億円以上ないと、災害等発生時に支払いができなくなるため、下限を設けています。資金残高が多くなりすぎると、それは料金が高すぎるということになるため、値下げしないといけなくなります。40億円を超えるようであれば値下げを検討するという目安になります。
岡崎委員	先程もおっしゃってたんですけども、借金をしても手元現金って増えますので、支払いをできないと少なすぎで、十分持ってないといけなけれども、たくさん持ちすぎるのは不健全でコストがかかって無駄であるというので、下限と共に上限があるのは違和感がないです。
北舎委員	なるほど。
仲上会長	そういう意味を持ってるということですね。
北舎委員	32 ページの投資目標ということで、今後の投資財政計画の中での汚水整備の目標値は100%に近いですね。浸水、地震、老朽化のところで、下の先程議論のあった地震対策や老朽化の一例、それぞれの取り組み、例えば浸水対策であるとか、その辺りを含めた取り組みの一例というのが方策として解説頂くのがよろしいかなと思います。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>現在の例は固有名詞になってしまっているため、少し留意をした方がよろしいのではないかと思います。</p> <p>31 ページの浸水対策のところ、平成 29 年に雨水基本構想を立てられておりますが、それ以降、色んな構想がありまして、非常に雨の降り方が変わってきています。</p> <p>35 ページの投資の中で 2027 年から 32 年まで年間 10 億円で設定されています。今後ここが変動していきます。どこまで雨水整備、浸水対策が健全な経営の中で投資できるのかというところを見据えられて、今後の雨水計画等を段階的に、2027 年ぐらいに見直すか、反映する等できたらと思います。</p>
福田次長	<p>今おっしゃって頂いたように、雨水対策につきましても、色々検討して今後進めていくというところがございますので、その辺りはまた見直していきたいと思います。</p>
仲上会長	<p>色々ご意見頂きましてありがとうございます。</p> <p>第 4 回は主に水道の方を中心に行いますけれども、本日頂いたご意見を整理しましてまとめていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、案件 3「第 2 回審議会における「水道事業ビジョン・経営戦略」の修正等及び審議会の今後の進め方について」、事務局より説明を受けたいと思います。</p>
堀井係長	<p>(「第 2 回審議会における「水道事業ビジョン・経営戦略」の修正等及び審議会の今後の進め方について」説明)</p>
仲上会長	<p>ただいま事務局から説明がございましたが、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。</p> <p>水道ビジョンにつきましては、今日の午後及び 17 日に事務局と私と山野副会長とで全体的に検討を行い、その下で審議会を開きます。</p> <p>案件 4「「水道事業ビジョン・経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理について」、説明をお願いします。</p>
堀井係長	<p>(「「水道事業ビジョン・経営戦略」の投資・財政計画と進捗管理について」説明)</p>
松本課長	<p>(シミュレーション 2 の設定の経緯について説明)</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
仲上会長	ただ今の事務局からの説明について、ご意見頂きたいと思います。
角谷委員	先程の説明で、値上げというのは、水道料金と下水道使用料の両方という意味ですか
福岡水道 事業管理者	水道だけになります。 現時点で、収支のバランスを取った上で水道のシミュレーションをしています。第6章-8の2030年度の将来予測において、2029年度と2030年度で料金収入が少し数字が上がっています。ここで値上げを仮定し、計算上妥当な数字として捉えさせて頂いています。 市民にご負担頂く際には、水道・下水道両方合わせた考え方で、改めて中間見直しのときに検討させて頂きます。その時に下水道が値下げできる場合、水道の値上げと相殺できる可能性もあります。あくまで現時点でのシミュレーション上の数字であるということを見て頂きたい。
仲上会長	水道料金の徴収と下水道使用料の徴収が一緒になっているので、水道の料金が上がった場合下水道の方はそれにつれて下がるのかどうかということですか。
福岡水道 事業管理者	見直しによって、下水道使用料を下げられる状況であれば下げることになるとは思いますが、下水道のことについて、水道が記載することはできないため、あえて水道では、抽象的な表現に抑えさせて頂いています。
岸本次長	いきなり値上げというよりも、こういうシミュレーションを行った結果を、今回、市民に周知することが必要ではないかということで、部内で調整した結果、この章で記載させて頂きました。
井上委員	値上げの内訳はどうなっているのでしょうか。各家庭で毎月、水の使用量が違うが、値上げの金額は固定になるのでしょうか。
福岡水道 事業管理者	現時点では、料金体系も含めた水道料金の見直しの検討は行っていないため、あくまでも基本料金と従量料金を合わせた全体に対して8%前後の値上げを仮定したシミュレーションとなっています。
松本課長	実際の料金改定になるとそれぞれ基本料金をどうするのか、従量料金をどうするのか、はたまた別の料金の考え方というのにも検討し、具体的にした上で審議会でご審議頂くという形になりますので、ここはあくまで割合

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
岡崎委員	<p>だけで示させて頂いています。</p> <p>値上げの表現について、今の記述のままでは違和感があります。 シミュレーション1と2としてしまうと値上げをしないといけないという圧迫感を感じます。事実として、こういうことが予想されていますということにしておくのはどうでしょうか。例えばシミュレーション2の方は「参考」として、もし計画期間終了後の2037年時点で健全な財務状態を維持するために何年の時点で幾らの値上げをすると2037年度も健全な財政状態が維持できますというようなことを、シミュレーション1、2ではなくて「参考」として示すのは一つの方向かなと思います。</p> <p>どちらにせよ、値上げということについては、いつの時期に何%を想定していると示さないと、シミュレーション2の意味は全くないように感じます。</p>
仲上会長	<p>シミュレーション1と2を書いてシミュレーション2しかないという表現ではなくて、第6章-3のように赤字を回避するためにはいろいろな方策があるけれども、例えば仮に10%ぐらいにしたらこの2037年問題が一応解消できるのだと。だから、このシミュレーション1、2ではなくて、事実とか参考、一つの方策としてあるのだという方が納得しやすいのではないのでしょうか。</p>
山野副会長	<p>計画期間内に、値上げ及び料金改定の可能性が高いと考えられる事業体は、やはり事前に料金改定が必要と思われる旨を記載されているところは幾つかあります。</p> <p>だから、値上げ想定されるのであれば逆に記載しないことの方が問題かと思います。設定をきちんと書いておくべきです。</p> <p>あと、値上げ率が書いていなかったら、数字を出されても、これは何を意味されているかよく分からないと思います。見直しを視野に入れてとか、中途半端な表現は分かりづらい。</p> <p>資金残高の考え方や企業債の考え方については、書いておかないと、後のシミュレーション、財政収支が変わってくるので、前提条件としてやはり考え方をきちんと書いて頂くべきかと思います。</p>
福岡水道 事業管理者	<p>補足説明で反映できるように再考します。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
山野副会長	<p>下水道と水道とでは資金残高や企業債発行の考え方が異なり、水道・下水道の審議を同時に行っていると違和感があります。</p> <p>経営者が異なるため、ある程度は仕方ないと思いますが、可能であれば水道・下水道で歩みよることはできないのでしょうか。</p>
角谷委員	<p>私は、シミュレーションについて、将来ビジョン、経営戦略という以上、蓋然性が強ければ「参考」という言葉は使わなくてもいい気がします。使うと弱まるような気がするため、私は「参考」として記載しない方がよいのではないかと思います。</p>
佐名川委員	<p>消費者は値上げというと今とても苦しく、水ということになると一番大切なものであり、それを値上げするということになると、すごく敏感になると思います。</p> <p>下水道と水道の二つの料金表示をしているので、それが一般の市民にはやはり分かりづらいなと常々思っています。経営者が異なるからなかなか一つにまとまるということが無理だとは思いますが、市民に分かりやすいようできたらいと立場上思います。いずれ値上げの段階になるとは思いますが、前々から聞いていたということが市民にも分かるような書き方だったらいと思います。</p>
福岡水道 事業管理者	<p>水道は厚生労働省の所管の事業であり、下水道は国交省になります。基本的に料金を頂くときは下水道のメーターはないので、水道の使用分が下水道に流れているというところでご負担は一括でお願いしています。</p> <p>災害の対応の仕方についても水道と下水道はかなり異なります。市民に分かりやすく表現していかないといけないと思います。</p>
山野副会長	<p>シミュレーションで 2037 年まで計算しているのは何か意味があるのでしょうか。計画期間からすると 32 年まででいいのですが、2037 年まで計算しているのは何か意味があるのでしょうか。</p>
福岡水道 事業管理者	<p>前述のアセットマネジメント手法を用いた今後 50 年の更新需要を考慮しながら、その中で計画期間である 10 年間の具体的な投資計画に基づき、この 50 年先まで見えています。</p> <p>その中でこの資金が枯渇してしまうのが 2037 年なので、2037 年まで記載しています。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
八木委員	<p>シミュレーション2を書かれているのは、2037年を乗り切るためにはという目標のシミュレーションということでしょうか。</p> <p>シミュレーション2で値上げをすれば何とかこの先は大丈夫という気になります。例えば5年後の見直しでまた足りなくなるから再度値上げということが、ずっと続くのであれば、その説明がないと、不信感を与えかねないと思います。</p>
福岡水道事業管理者	<p>更新需要において大きな波が、まだこの後ろにだいぶあります。それを1回の値上げだけで賄うのは計算上できますが、それをやると大幅な値上げになります。</p> <p>それは市としても市民に理解頂けない数字になりますので、そこは平準化を行い、ご理解頂ける範囲で必要な改定を将来的にもさせて頂く必要があります。ただ、現時点では確定していないため、こういう表現に留めさせて頂いています。</p>
岡崎委員	<p>2037年までしか書かないにしても、取りあえず2040年とか計画終了後の10年ぐらいまでは、このシミュレーションをやった後でもいけるということなのではないでしょうか。</p> <p>例えば2037年過ぎたらまた下がるというような事態ではなくて、2040年ぐらいまでは取りあえず大丈夫というシミュレーションになっていくのでしょうか。</p>
松本課長	<p>今回この期間の後半ぐらいで料金の見直しをすれば、今のシミュレーション上では10年は料金の見直しということはないで済むような形でシミュレーションさせて頂いています。ただ、資金残高が減っているようであれば、また将来的に見直し等を検討する可能性があります。</p>
福岡水道事業管理者	<p>経営戦略は、総務省のマニュアルにおいて、基本的に50年先ぐらいまでは見通しなさいと示されています。</p> <p>さらに、計画期間の10年間は、具体的に示し、その間に料金値上げがある場合、市民に提示する考え方であるため、国の指示に従い、その辺は国に照らし合わせた形で進めていきます。</p>
仲上会長	<p>各委員の意見を踏まえて、また修正を続けたいと思います。</p>
仲上会長	<p>それではこれで本日の予定の議事は終了しましたが、他に何かございませんでしょうか。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
井上委員	下水道の方をお願いしたいのですが、資料がどんどん増えてますので、上水のように、日付を表紙に入れて頂けるととても有難いのでお願いできますか。
藤田 建設部長	第何回しか書いていないので、開催日を上に入れるということですね。
井上委員	はい、そうです。
仲上会長	本日の審議会の議案は終了しました。 次回の審議会の日程等について、事務局より説明を受けたいと思います。
堀井係長	第 4 回目の審議会は、11 月 1 日（火曜日）午前 10 時、本日と同じく福祉文化会館 2 階 202 号室でお願いします。
仲上会長	11 月 1 日（火曜日）午前 10 時より、次回の審議会を開催致しますのでご参集を宜しく申し上げます。 以上を持ちまして本日の審議会を終了します。